



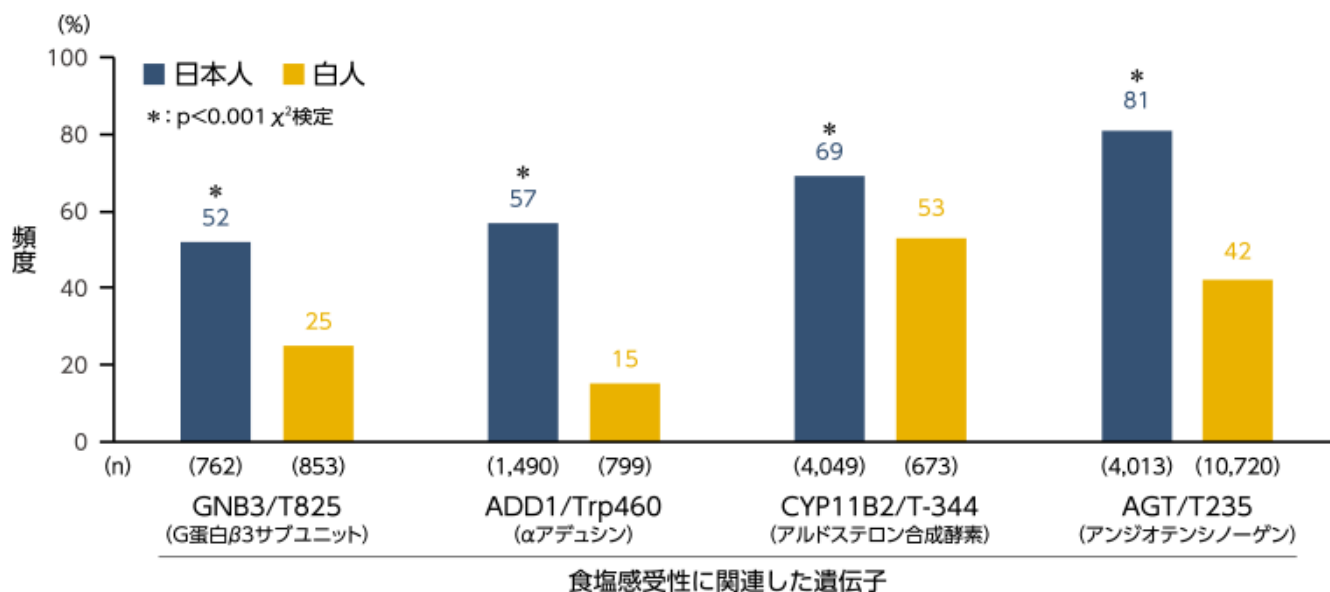
1 Nagoya Med J. 2013; 53: 123-134  
 2 Prog Med 2012; 32: 1025-1028

食塩感受性に関連した遺伝子

日本人と白人の食塩感受性に関連した遺伝子の頻度の比較<sup>1)</sup>  
 日本人と白人の食塩感受性に関連した遺伝子の頻度の比較<sup>2)</sup>

日本人と白人の食塩感受性に関連した遺伝子の頻度の比較<sup>1)</sup>

Image



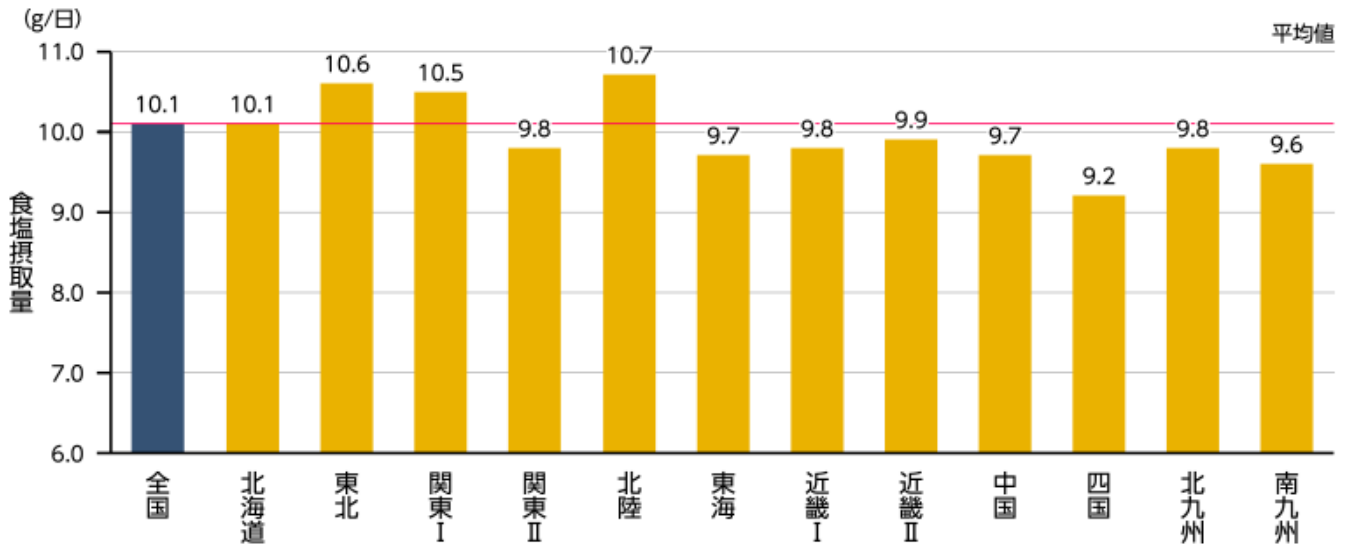
日本人と白人の食塩感受性に関連した遺伝子の頻度の比較<sup>1)</sup>  
 日本人と白人の食塩感受性に関連した遺伝子の頻度の比較<sup>2)</sup>

1 Katsuya T, et al.: Hypertens Res. 2003; 26, 521-525  
 2 Kario K, et al.: Hypertension. 2018; 71: 375-382

食塩感受性に関連した遺伝子  
 食塩感受性に関連した遺伝子

日本人と白人の食塩感受性に関連した遺伝子の頻度の比較<sup>1)</sup>  
 日本人と白人の食塩感受性に関連した遺伝子の頻度の比較<sup>2)</sup>  
 日本人と白人の食塩感受性に関連した遺伝子の頻度の比較<sup>3)</sup>

Image



※ 食塩摂取量の地域別差は、食生活の違いや気候による汗の排出量の差などが原因と考えられています。また、食塩摂取量の多い地域では、高血圧の有病率も高くなる傾向があります。

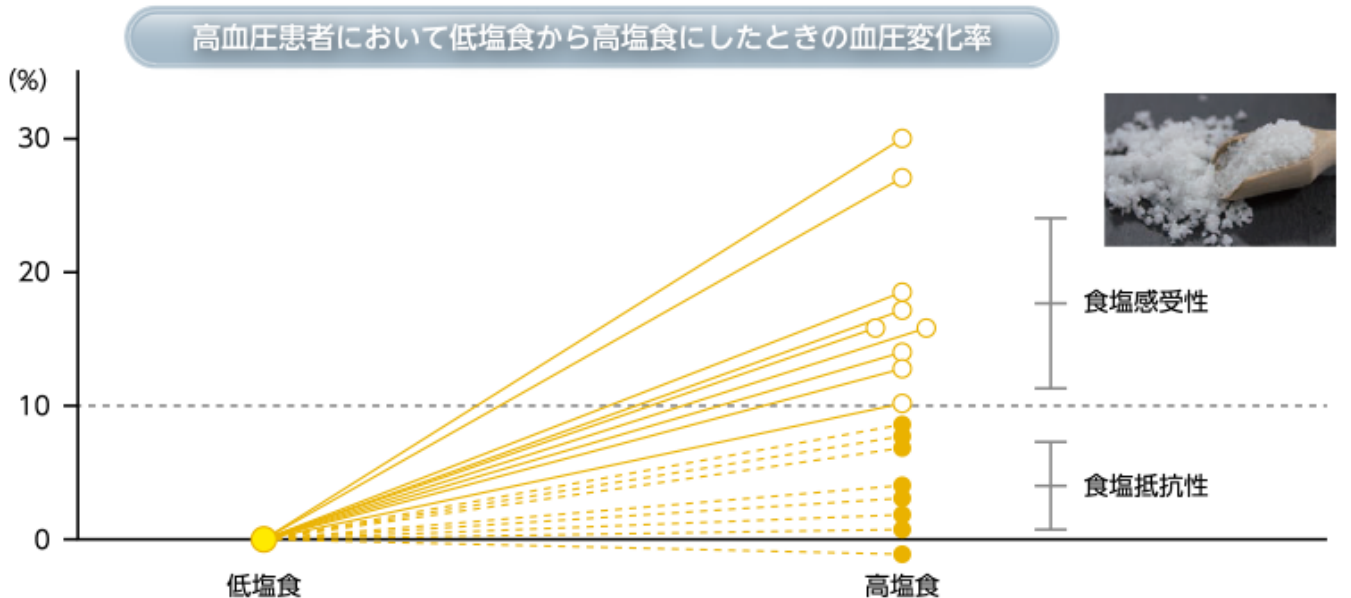
1 食塩摂取量の地域別差は、食生活の違いや気候による汗の排出量の差などが原因と考えられています。

2 食塩摂取量の地域別差は、食生活の違いや気候による汗の排出量の差などが原因と考えられています。

3 食塩摂取量の地域別差は、食生活の違いや気候による汗の排出量の差などが原因と考えられています。 参考文献：厚生労働省「2019, p.64, 食塩摂取量, 2019」

食塩摂取量の地域別差は、食生活の違いや気候による汗の排出量の差などが原因と考えられています。

### Image



食塩摂取量が4g未満の低塩食から6g未満の高塩食にすると、2/3の患者で140/90mmHg以上になる傾向があることが19年

の調査で明らかになりました。Na 9mEq未満の低塩食からNa 100mEq未満の高塩食にすると、Na 240mEq未満の高塩食にすると、

食塩摂取量の多い地域では、高血圧の有病率も高くなる傾向があります。また、食塩摂取量の多い地域では、高血圧の有病率も高くなる傾向があります。

食塩摂取量の多い地域では、高血圧の有病率も高くなる傾向があります。また、食塩摂取量の多い地域では、高血圧の有病率も高くなる傾向があります。

食塩摂取量の多い地域では、高血圧の有病率も高くなる傾向があります。 参考文献：厚生労働省「2021, p.64, 食塩摂取量, 2021」

---

**Source URL:**

[https://www.pro.novartis.com/jp-ja/products/entresto/high\\_blood\\_pressure/salt\\_ht](https://www.pro.novartis.com/jp-ja/products/entresto/high_blood_pressure/salt_ht)